

大草谷津田いきものの里 自然観察会

ドングリで遊ぼう

佐藤一枝 (千葉市)

日 時： 2011年10月2日（日）10:30～12:00 天気：曇り&晴れ

参加者： 14名（大人11名・子ども3名）

担当指導員：岡田敬子・佐藤一枝

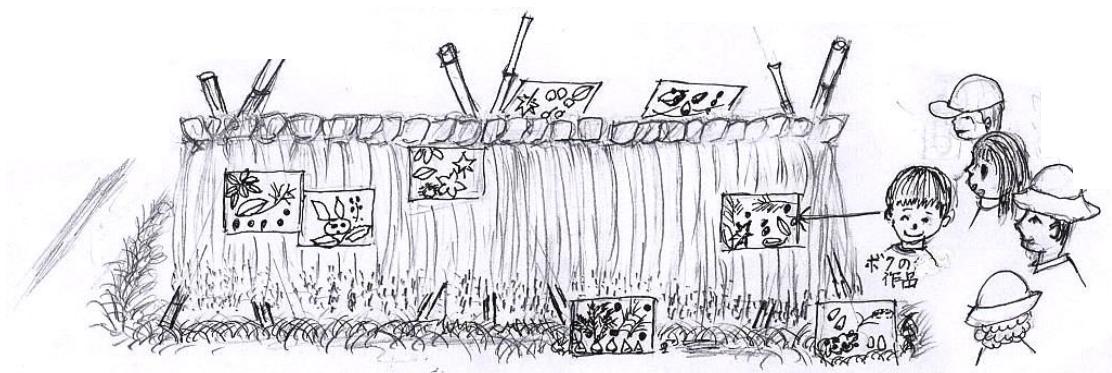
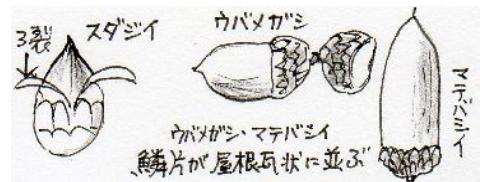
ちょっと一枚羽織ろうかなと感じる寒さでしたが、観察会が始まる頃は、暖かくなっていました。入口の広場で、大草いきものの里について、主旨・概要の説明、スズメバチや事故についての注意をする。ミニ作品を作成し展示してみましょう、と観察会開始。

まず、実物大の資料でアラカシ、シラカシ、クヌギ、コナラ、カシワを照らし合わせて見る。「広葉樹の殻斗は色々ありますが、常緑樹の殻斗は全部横縞ですね」と問いかに、*スダジイは殻斗が3つに裂け横縞ではなくさざ波、ウバメガシ・マテバシイは鱗状ですね。

林縁のシラカシの観察。ドングリが沢山付いている、でも隣の木には付いていない？？？どうして？ 森の入口のコナラの木の下には、去年のドングリが沢山落ちている。木には・・と目を凝らしても生っていません。*台風などで花芽がやられたか“裏年”とかで、不作のようです。裏年----植物自体が内存的にもっている開花・結実の周期的変化です。実を結ぶのには大きなエネルギーが必要で、毎年はとてもできないのでしょうか、と話しながら森に入る。

薄暗い杉林を抜け台地に出るとノダケの赤紫の蕾、葉柄が面白いと写真を撮る人あり、シラヤマギク、キツネノマゴ、ヌスピトハギ、イノコズチ、アキノタムラソウ・ヒメキンミズヒキ---

山を下るとドングリをいち早く子どもが見つけ嬉しそう。大人も探すようにして拾い、ちよっぴりドングリ拾いが楽しめた。スギの色づいた葉、クマノミズキの赤い柄、ドングリ---を手に下りると目の前に谷津田が広がり、架掛された稻穂が並び---それは素晴らしい谷津田そのものが自然の美術館です。用意した材料とで作品作りを楽しみ“架掛けの稻と草道の小さな空間の美術館”に作品を飾り鑑賞しました。*自然に溶け込む色にとダンボール（キャンバスにし）、掛紐はリボンではなくシュロ繩にしてみました。



・植物や昆虫のことすぐ教えてもらえてよかったですとの感想。参加者の皆さん自然のままの大草谷津田を堪能されていました。指導員の皆さんのご協力により楽しいうちに終了しました。

反省：今年のドングリにこだわらず、折角去年のものがあるんだから、それで遊んだけがよかったですかな？ 自然相手のテーマは難しいですね。